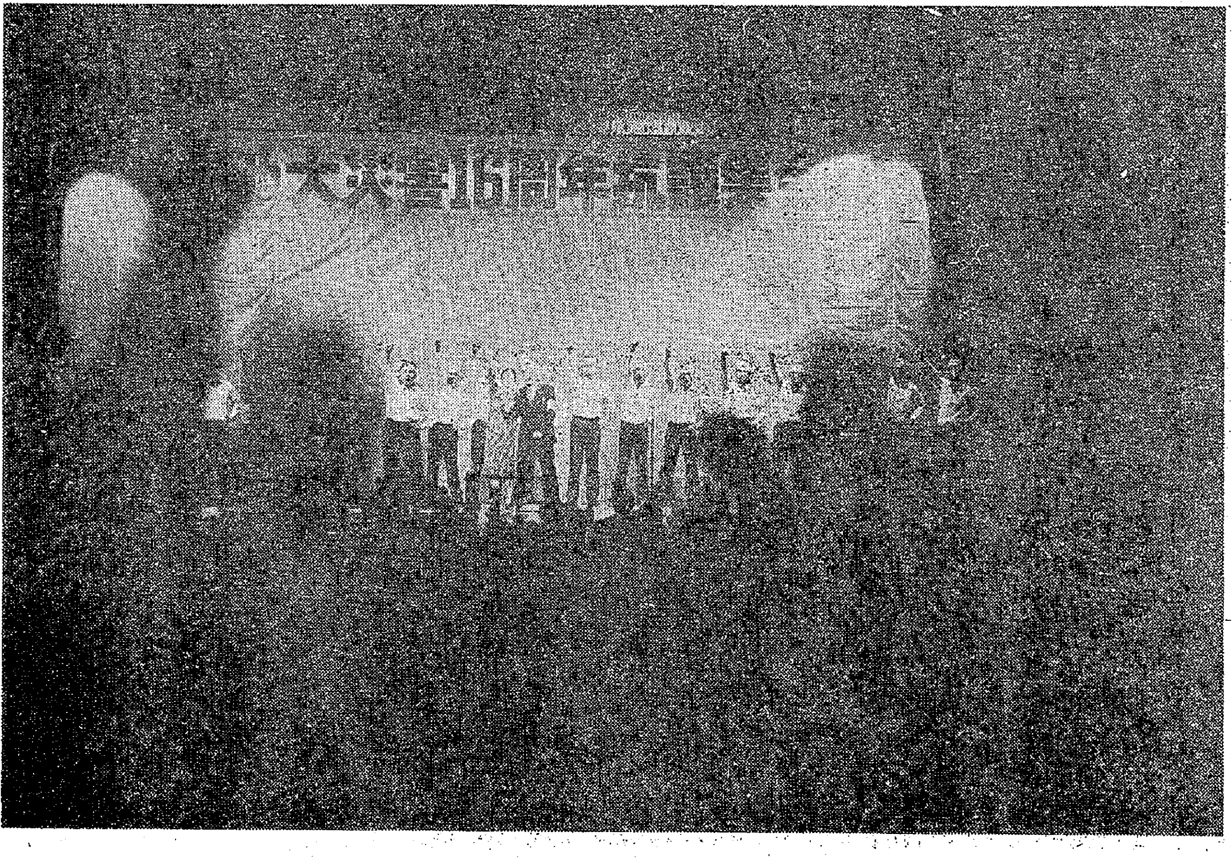
地に根をはる闘いを

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話(53)3033
(53)3034番
編集兼発行人 前川哲也
半年間1.200円 送料共


大災害16周年抗議集

抗議集会は、最後に「団結がんばろう」を叫んで幕を閉じた。

この日なきため団結

三池大災害抗議集会で誓う

三池大災害十六周年抗議集会は、大爆発の日の十一月九日、大牟田市民会館に、ストライキをうって結集した組合員をはじめ、その家族、来賓、三池にまなぶ集会ほか諸団体を加え、災害責任に何の反省もなく、今も変らず労働者の命を奪い続けている三井鉱山に抗議したが、今後「この日なきために」（この集会のテーマ）、交流の席で聞かれたように「地に根をはりまわす闘い」の創造にこそ、力をそそぐべきだろう。

三池大災害抗議集会は、働く者の怒りを燃えあがらせた。

三川鉱炭じん大爆発（昭和三十八年十一月九日）後の死者百二十二人。今年だけでも四人の坑内労働者が命を奪われ、多くの重軽者を出してきた。

それにもかかわらず、上期の減産分を下期にうわ乗せする増産体制を押しつけ、労働者をひどい重労働に駆り立てるその会社の態度が、火に油をそそぐ結果を招いたから。

原告団代表の〝決意表明〟とともに、この日全参加者の感動を呼び起こした構成詩〝この日なきために〟は呼びかけた。

×

一九六〇年三月
三池闘争のさなか
久保清さんを襲った黒い手のひと突きは
心臓を確かにつらぬいた
それは
やくざの突然の狂気でもなければ
警備の隙をついた偶然の出来ごとでもなかった
この虐殺こそ
新安保条約のもとでも
炭鉱合理化のゆきつくところを示し
三年後の大虐殺を準備し
ファッシズムの足音をつげる警鐘だった

……………

あれから十六年。（後略）

×

この日の市民会館は、働く者の怒りに包まれた。

各来賓の挨拶

この日は、多くの来賓が次のような連帯の挨拶をおくった。

——大災害の原因さえ、三井は隠そうとしてきた。それでも三池は闘っている。その不屈さに学んで行動を積みあげてこそ、エネルギー政策、情勢をかえ得る力もつくり出す。（岩崎・福岡県評事務局長）

——何よりも美しく尊いものこそ命だ。三池主婦会に学び、子どもに伝え得る闘いをすすめたい。（今吉・総評主婦の会副会長）

——朝日新聞の記事で胸晴れた思い。災害原因がハッキリした。スモン裁判のように、会社が最後には折れた例もある。闘おう。（阿具根・社会党代表）

——自主保安の口実のかげで、三池炭鉱では負傷者にすべて責任をおしつけている。裁判闘争もヤマ場だ。さらに力を大きくして前進しよう。（下川・共産党代表）

ほか、京成と北摂各CO守る会代表の挨拶は本紙四面、森田炭労委員長の挨拶（要旨）は二面に。

全国から来賓多数

燃える闘いの火かかげ

こんどの抗議集会には、全国から多くの来賓のほか、三池にまなぶ全国集会参加者、社青同、社青同全国協などの組織的集団参加があり、三池労組の命を守る闘い、CO闘争の火が根強く燃え続けていることを示した。

まずおもな来賓を見ると、次の人びとがある。（敬称省略）

社会党代表＝阿具根登（社会党副委員長。参議院議員）、共産党代表＝下川忠範（同党福岡県委員）、細谷治嘉（衆議院議員）、小柳勇（参議院議員）、福岡県総評代表＝岩崎隆次郎（同事務局長）、熊本県総評代表＝魚返正臣（同事務局長）、炭労代表＝森田久雄（同委員長）、総評主婦の会代表＝今吉マサエ（同副委員長）、京成CO守る会代表＝萩原勝美、北摂CO守る会代表＝屋島忠文。ほかは省略させていただく。

弔電も……

抗議集会に電報を寄せていただいた団体・個人は次の通り。（敬称省略）

総評、衆議院議員・森中守義、都高教組CO守る会、機東不知火会、明るい荒尾市をつくる会・門田作、十条労組八代支部、玉名地区労、衆議院議員・多賀谷真稔、同・中西績介、関西不知火会、新日本婦人の会大牟田支部、弁護士・坂本恭一（前衆議院議員）、織井青吾（ルポライター）、山田松草（広島。CO守る会会員）

次は広島のCO患者守る会会員・山田松草さんの電報。

「一一・九。願いはひとつ、道はひとつ。ともに闘いましょう」

みいけ〝新年文芸〟を募集

××××××××××××××××××××××××××

本紙ではただ今、新年文芸を募集しております。みんなで原稿を書き合って、ぜひみんなの手づくりの〝みいけ〟新年号を世に贈りたいものです。

次の募集要領を参考にしていただき、どしどし寄せてくださいますようにお願いします。

×

小説・随筆・コントなど いずれも四千字以内に。随筆にコントは、短いほどよい。題は自由。一人それぞれ一篇以内。

詩・短歌・俳句・川柳 題自由。一人三首以内。

職場・家庭からの手記 字数四千字以内。題自由。一人一篇。

姿見 字数五百字以内。主婦に限り一人一篇。

写真・絵・マンガ 題自由 必ず白黒で。一人各三部以内

子供の作文 題自由。字数など問わぬ。一人一篇以内。学年、父親名を明記のこと。

その他 締切り十二月十五日 また作品参加全員に、薄謝進呈。

×

なおこの募集は、三池労組とその家族のほか、三池退職者の会会員や原告団団員、三池新労組員、全国のCO患者守る会会員とその家族の皆さんも含めておりますから、どうかご遠慮なく原稿をお寄せくださることを心から願ってやみません。

——編集部

炭労が創立記念作品を募集中です

このほど、炭労中央から、創立三十周年を記念して、炭労のシンボルマークと小論文を募集するとの知らせがきました。

シンボルマーク

シンボールマークはバッチで三十周年を機に、現在活用しているものを刷新し、炭鉱労働者がだれでも親しめ、常時洋服の襟章として愛用できるバッチを希望しています。その大きさは、十センチ×十センチで、色彩は問わず、ハガキに描いてもよいそうです。

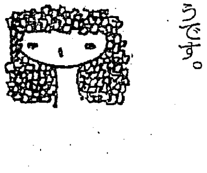
小論文

小論文の方は、今後の石炭産業の展望などを中心課題とするもので、字数は四千字以内とされています。

その他のこと

応募資格は、炭労傘下各支部の組合員と家族。

締切りは、十二月二十五日まで。作品発表は来年の一月末。入選作品はそれぞれ一点とし、炭労中央執行委員長賞として、賞金五万円を贈る。注意事項としては、所属支部、氏名、年齢、住所、職場名を明記すること。

送り先は、炭労本部事務局（東京都中野区中央三丁目九—一二）あてに。応募作品は、返さないそうです。